

バージニア大学のディフェンスはハードに動き、ペイントにボールを入れさせない。

BASKETBALL COACH WEEKLY

バスケットボール・コーチウイークリー

日本語版 第107号

バージニア大学ヘッドコーチ、
トニー・ベネット。

フルコート プレス

攻撃にトラップをかける

ディフェンスドリル

ペイントに入れさせない戦術

オフェンスの
混乱を誘発せよ!

攻撃的なディフェンスのために、オフザボールオフェンスをマークする方法を教えよう。

PICKUP! a Shot



ボールマンにダブルチームをかけると、相手がプレスを突破したとしても、セットプレーのポジションからは外れる。(P.6)

バスケットボール・ コーチウィークリー 日本語版 第107号

2019年10月16日発行
定価 1,200円+税

発行
ジャパンタイム株式会社
〒113-0033
東京都文京区本郷5-25-14
TEL 03-5840-9980
FAX 03-3818-6656

発行人
秀島卓也

編集人
宮村 淳

監訳
倉石 平

協力
早稲田大学スポーツ科学学術院
スポーツ戦略研究室

翻訳
(株) ラスターテック

デザイン・DTP作成
(有) あほうせん

(c) ジャパンタイム(株) 2019
本誌掲載の記事・写真の無断複写・複製・転載を禁じます。

"Basketball Coach Weekly" is Green Star Media Ltd's Products.
Copyright (C) Green Star Media Ltd. All rights reserved.

"Encyclopedia Of Pack Line Defense" is Scott Peterman's Products.
Copyright (C) Scott Peterman All rights reserved.

ディフェンスドリル

よりハードにオフェンスを コントロールしよう 3

ペイントに入れさせず、トランジションでの得点をさせないように、オフェンスを強制的にバスケットから遠ざけ、シュートを難しくさせる。

「ノーペイント」でレーンを守る 4

ディフェンダーはスプリントし、スクランブルでボールマンのストレートラインドライブを止め、バスケットから遠ざけておかなければならない。

ハッスルが必要な「2対2コンバージョン」 5

プレーヤーはシュートの後トランジションでスプリントしなければならない。コート前方で待っているプレーヤーにボールがパスされるからだ。

フルコートプレス

2-2-1で オフェンスを崩す 6

コートの中道をシャットダウンし、ボールマンを強制的にトラップに引き込むと、オフェンスは、トラップを行う攻撃的な2-2-1フルコートディフェンスの突破に苦しむ。

「ショートバック」で アグレッシブにプレスをかける 7

いくつものアドバンテージを持ってトラップし、相手のミス誘う練習をしよう。プレーヤーが攻撃性を維持できれば、ターンオーバーを起こさせる。

「ディープバック」でミッドコート付近でトラップをかける 8

このプレスの目的はたくさんのターンオーバーを誘い出すことではない。フロントコートに入ったらオフェンスの注意を散漫にし、意図していることをさせない。

チームを率いる方法

プレーヤーたちと一緒に過ごせる時間を楽しもう 9

パート・デサルヴォは、カレッジレベルから高校にやってきた。このレベルで再び勝つために、必要な指導の仕方を模索している最中だ。これは、同じような境遇で悩むコーチ達に対してデサルヴォ自身が綴った投稿である。

PLAY BOOK SELECTONS 10

「バックラインディフェンス」【最終回】

最新のディフェンス戦略として注目されているバックラインディフェンスの考え方、ポジショニング、具体的な戦術までが段階を追って紹介される。



トラップをかけると、オフェンスは何をすべきが分からなくなる。

バージニア大学のディフェンスはトップクラスだ。彼らはハードに動き、ペイントにボールが入るのを防ぐことができるからだ。



よりハードにオフェンスをコントロールしよう

ペイントに入れさせず、トランジションでの得点をさせないように、オフェンスを強制的にバスケットから遠ざけ、シュートを難しくさせる。

ドリル: アシーム・ラストーギ Aseem Rastogi
バージニア州ウッドソン高校女子チームヘッドコーチ
文: マイケル・オースティン(本誌英語版編集長)

毎年、バージニア大学のディフェンスは強く、勝利の一因でもある。バージニア大学は、バックラインディフェンスを採用していることで有名だ。これはボールをレーンに入れないようにし、ドリブルアタックに対しヘルプに入り、簡単にペネトレートさせずに、オフェンスのボール回しをペリメーターに留めておくものだ。

調整されたディフェンス・エフィシエンシー、つまりポゼッション100につき、相手に許した得点において、バージニア大学はアメリカでトップのチームだ。この記事執筆している2017年11月の時点で、ポゼッション100あたりに相手に許した平均ポイントは86であり、第2

位のチームより4ポイント上だ。そしてその前のシーズン(2016-2017)は、バージニア大学のディフェンスをさらによく反映していた。ACCトーナメントで、最終的に優勝したノースカロライナ大学に対し、65ポイントと43ポイントしか得点を許さなかった。

なぜバージニア大学がこれほどうまくディフェンスできるのかという要因は無数にあるが、私の見た感じ、主に2つあるように思う。ボールをレーンから遠ざけておくことと、トランジションでディフェンスに入る時だ。この2点が、今日皆さんに紹介するドリルを選んだ理由だ。

1つめのドリルは「ノーペイント」だ。その名

の通り、ボールをペイントから遠ざけておく。ディフェンスがシフトし、動き、声を出し合いディフェンスする4対4ドリルなので、ボールマンはレーン内に入れられない。ボールを持ったオフェンスがレーンに両足を入れられたら、オフェンスに1ポイント与える。バスケット下のチャージサークルにボールを持ったまま入れたら、2ポイントを与える。

2つめのドリルは、ディフェンストランジションに焦点を当て、コンディショニングドリルとしての効果を倍増する。プレーヤーは点を取るのが好きだ。しかしディフェンスをするのも好きにさせるのが、コーチの仕事だ。

「ノーペイント」でレーンを守る

ディフェンダーはスプリントし、スクランブルでボールマンのストレートラインドライブを止め、バスケットから遠ざけておかなければならない。

なぜこれを使うのか

ペイント内に入ったら、オフェンスにとってのチャンスだ。ディフェンダーにはローテートの仕方と、レーンからボールを遠ざけておくための対応を教えよう。

セットアップ

4人のオフェンスプレーヤー（白）はペリメーターに散らばる。1人がボールを持つ。4人のディフェンダーは3ポイントラインの内側に入り、それぞれのマークマンにつく。ボールが右サイドにあるため、ミドルのヘルプに入れるよう、#2と#3は自分のマークマンから少しずれて立つ。

プレーの仕方

●ミドルはX1とX2に塞がれているので、#1はコーナーに向かってペリメーター上をドリブル。X1とX4はそのドリブルアタックをカットオフするから、#4はゲットオープンでパスを受け取るためにローに移動。#1は#4にパス。(図1)

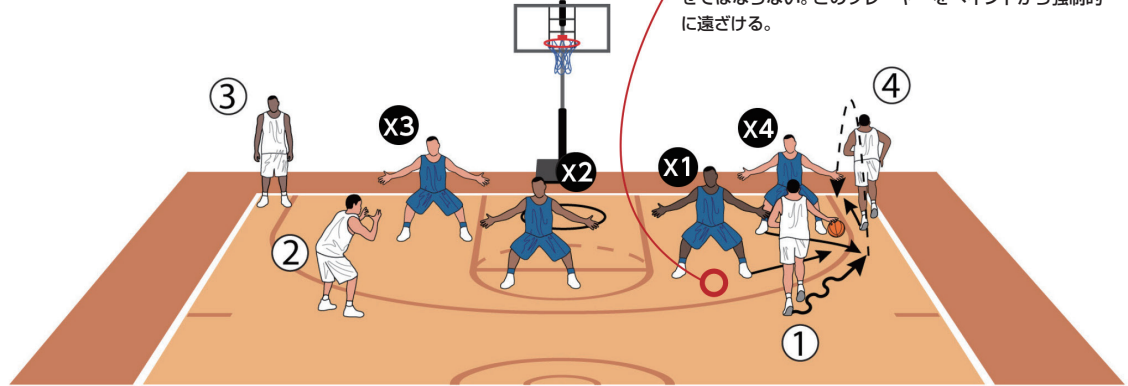
●キャッチしたら#4はすぐにベースラインに沿ってドリブルでバスケットに近づく。X3は#4がレーンに到達する前に、スプリントで#4を止める。バスケットにはミドルヘッドロップ。#4は#2にキックアウトパス。(図2)

●#2は素早くドリブルしレーンに向かう。X2はその攻撃を止めようと努める。(図3)

テクニク

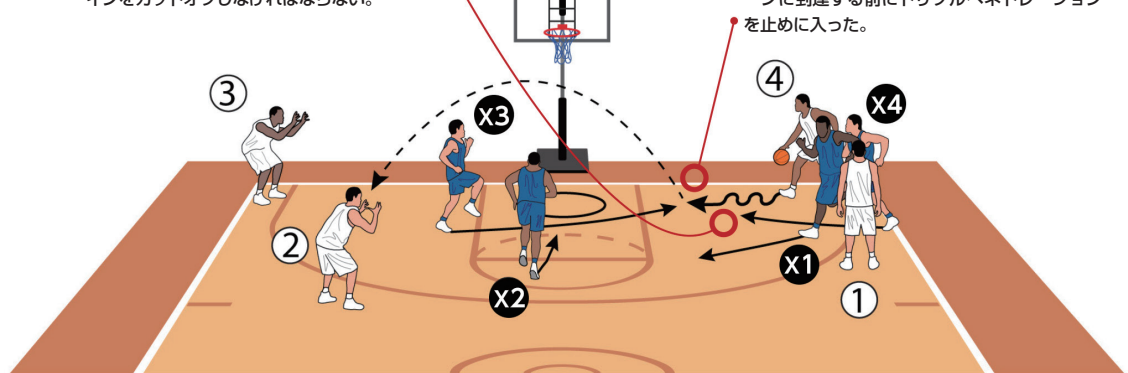
ボールを持ったプレーヤーの両足がペイントエリア（レーン）に入ったら、オフェンスに1ポイント付与。オフェンスがドライブでチャージサークル（図の中でバスケット下に書かれている円の部分）に入ったら、オフェンスに2ポイント付与。

1



オフェンスにディフェンダーの間を抜けさせてはならない。また、ボールマンがレーンに容易に入れる通路を作らせてはならない。このプレーヤーをペイントから強制的に遠ざける。

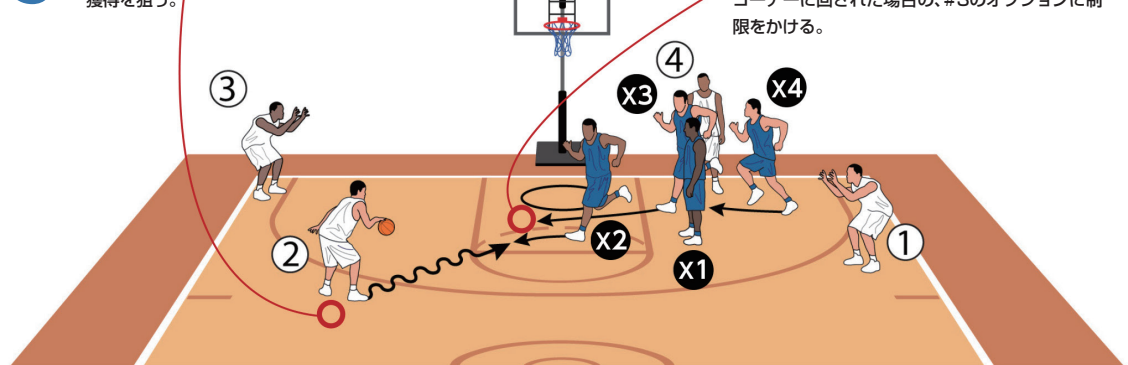
2



コーナーへのパスはディフェンスにとって好都合だ。だが、X4は素早くリカバーしてベースラインをカットオフしなければならない。

この例では、X4はすぐにローテートしなかった。だからX3がレーンを横切って、オフェンスがレーンに到達する前にドリブルペネトレーションを止めに入った。

3



キックアウトパスを受け取ったら、#2はすぐにバスケットに近づき、レーン内に両足を入れて1ポイント獲得を狙う。

ディフェンダーは素早くローテートし、このドリブルペネトレーションを止める。だが、これはパスがコーナーに回された場合の、#3のオプションに制限をかける。

プレーヤーの動き → ボールの動き - - - → ドリブル 〰️ → シュート →

ハッスルが必要な「2対2コンバージョン」

プレーヤーはシュートの後トランジションでスプリントしなければならない。
コート前方で待っているプレーヤーにボールがパスされるからだ。

なぜこれを使うのか

ディフェンダーは全員がハッスルしなければならない。そうすることによってオフェンスの動きを遅くすることができる。

セットアップ

コートの両側のトップ、3ポイントラインの外側にコーチが1人ずつ立つ。左サイドで、白いユニフォームのチームの2人がオフェンス。#3～#6のプレーヤーはサイドラインの外側でプレーに参加する順番を待つ。青チームのプレーヤー1と2はディフェンス、青チームの他の4人は逆サイドで待つ。

プレーの仕方

● 2対2でスタート。まず、白チームが青チーム相手に得点を狙う。(図1)

● 白チームが得点、あるいは青チームに止められたら、青チームの1人がトップのコーチへパスする。パスを受け取ったコーチはもう1人のコーチにアウトレットパス。このコーチは次に、その側のコートにいる青チームの2人のうちの1人にパスする。白チームの#1と#2はトランジションディフェンスでスプリント。(図2)

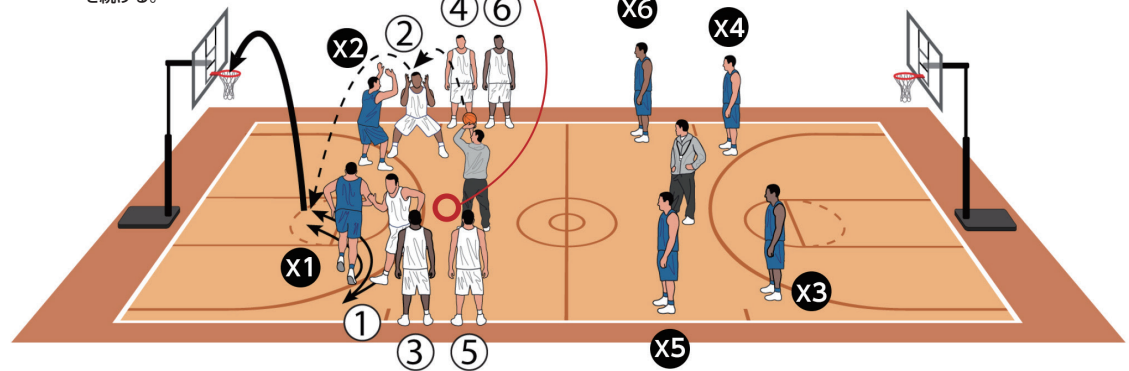
● 青チームの#1と#2は逆サイドの列の後ろに走り、再び2対2をスタート。今回は、青チームが得点、あるいは白チームに止められたら、白チームのプレーヤーがインバウンドをし、アクションを継続する。(図3)

テクニク

ハーフコートで1ポゼッションごとに許されているのは、ドリブル3回とパス1回だけである。ショットクロックを10秒にセットして、ドリブルとパスの回数を無制限にしてもよい。バスケットに得点できたチームに1ポイント。6分間プレーする。

1

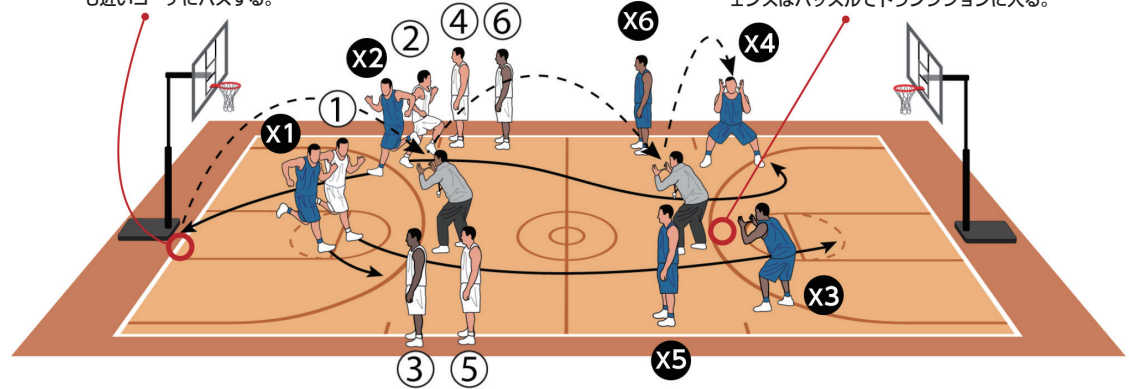
2オン2でプレーをスタート。コーチは白チームにパス。バスケットに得点、または相手に止められるまでプレーを続ける。



2

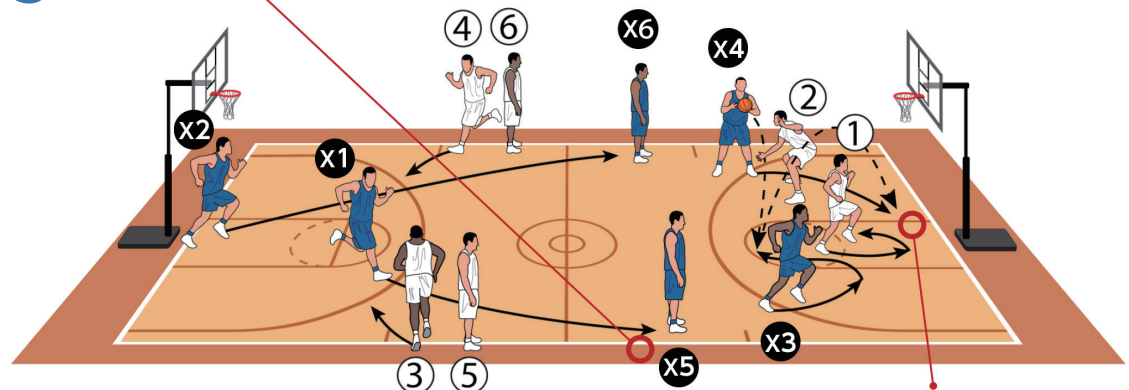
ボールがネットを通過したか否かにかかわらず、あるいはディフェンスがオフェンスを止めたら、ディフェンスチームがボールを持って最も近いコーチにパスする。

ボールはすぐにコート前方にいるコーチにパスされ、待っていたオフェンスプレーヤーに回される。(さっきまでオフェンスをプレーしていた)ディフェンスはハッスルでトランジションに入る。



3

最初にディフェンスだったプレーヤーは自分のチームの列の最後尾に並ぶ。



トランジションでのディフェンダーは誰がどの役割につくか、を伝えるため声を出し合わなければならない。そしてスプリントでフロントコートに向かい、相手にシュートを打ちにくくさせる。

プレーヤーの動き → ボールの動き - - - → ドリブル ~~~~~ → シュート →

バックコートのボールマンにダブルチームをかけると、相手がプレスを突破したとしても、セットプレーのポジションからは外れる。



2-2-1でオフェンスを崩す

コートの中ドルをシャットダウンし、ボールマンを強制的にトラップに引き込むと、オフェンスは、トラップを行う攻撃的な2-2-1フルコートディフェンスの突破に苦しむ。

文：マイケル・オースティン
(本誌英語版編集長)

経験不足のチームやプレスが苦手なボールマンと対面した時、ターンオーバーを起こし、オフェンスのリズムを崩したいなら、2-2-1フルコートプレストラップが有効だ。

次の対戦相手をスカウトする時は、カットとパスに注目すべきだ。ボールを持っていないプレーヤーがハードに動かないチームが相手なら、しっかりとしたポイントガードがいるチームでも、2-2-1でディフェンスのアドバンテージを持てる。

最初にプレーヤーに教える重要なポイントは、2-2-1を実行する際は、ボールをミドルの外にキープさせることだ。サイドラインに沿ってボールを回させたい。ここは、ヘルプディフェンスが必要な、そして最終的にトラップを起こす位置だからだ。コートの片側にボールを追いやり、ウィークサイドのディフェンダーはミドルにシフトしロブパスとリバースパスをさせない。

すでに述べた通り、2-2-1は、オフェンスをドリブルさせ、トラップできるところに追い込む。トラップディフェンスは、自分の役割を果たせない、あるいは自分の能力に自信がないボールマンにとっては悪夢だ。トラップの間は、手を伸ばしたりファウルをしたりして、相手チームにチャンスを与えないようにする。足と声を使って混乱状況を増大させ、両手を高く上げ続けてパスアングルを縮小することをプレーヤーに教えよう。ボールマンのスペースに手を伸ばし、ボールを奪おうとすることなく、何回ものターンオーバーを手に入れられるだろう。

このディフェンスは有効だが、ポゼッションの度に相手を必ず止められるシステムなど存在しない。ターンオーバーとその後を生じる簡単な得点により、プレーヤーは2-2-1が気に入るだろう。だが、ブレイクダウン時にはスプリントしなければならない。

オフェンスがボールを動かし、フロントコートへの経路がある場合、ボールに最も近いプレーヤーをそこに残し、他のプレーヤーは、素早く戻り、ノーマークでのレイアップを阻止する。

数回続けて2-2-1が突破されてもガッカリしないようにプレーヤーに指導しよう。フロントコートへスプリントに戻れば、相手チームの動きを遅くすることができるし、強制的に都合の悪いアングルでのハーフコートオフェンスに追いやることできる。プレッシャーをうまくかければ、相手チームを疲弊させられる。2-2-1を使えば、それができる。

相手プレーヤーは、あなたのチームのコンスタントに続くトラップやプレッシャーに対処することに身体的にも精神的にも疲れてくるので、あなたのチームは試合終了間際の時点で、大きなアドバンテージを持てる。

「ショートバック」でアグレッシブにプレスをかける

いくつかのアドバンテージを持ってトラップし、相手のミスを誘う練習をしよう。
プレーヤーが攻撃性を維持できれば、ターンオーバーを起こさせる。

なぜこれを使うのか

フルコートプレスに対するアウトレットの場合、1人か2人のプレーヤーが深い位置に残り、プレーヤー全員を相手コートに送り、ターンオーバーを起こさせる。

セットアップ

2-2-1のフルコートゾーン。ディープのディフェンダーは、ハーフコートラインのやや後ろに立つ。ガードの2人は両エルボーに立つ。その後ろにハーフコートラインの前方で、スペースを取って残りの2人が立つ。

プレーの仕方

● オフェンスがインバウンドで前方へドリブルを狙う時、そちら側のディフェンダー (X1とX3) がボールマンに向かう。プレッシャーが与えられるので、ボールマンはドリブルを止めざるを得ない。X2はミドルヘッドロップ。X4はミドルヘローテート、X5はフロントコートへのパスを封じる。(図1)

● 今、X2は#3へのパスバックをカバーしに向かっている。X4はコートのバックサイドをカバーしており、#2または#4へのパスをピックオフするポジションにいる。X5は、#5へのパスアングルをカット (図2)。

● #1が#3へパスを戻したら、X1は新たなボールマンをガード。X2はボールリバースを阻止。X3はミドルヘッドロップ。X4は#4へのロングリバースパスのアングルを封じる。X5はフロントコートのミドルをカバー。(図3)

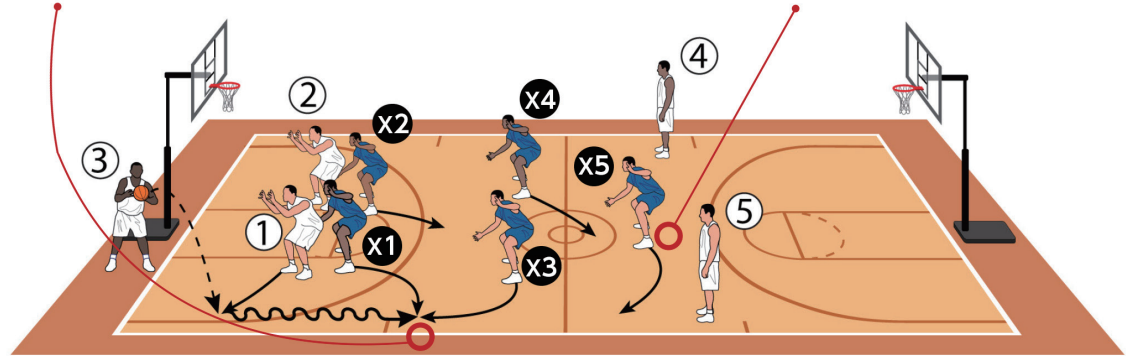
テクニック

パスが#3に戻されたら、オフェンスは誤った方向へ向かう。10カウントする前に彼らがミッドコートより前へボールを運ぶことができても、彼らの望むとおりのオフェンスを継続するのは難しい。

1

ボールマンには、このダブルチームに対してドリブルで挑ませる。なぜなら、他のディフェンダーがそれぞれの役割をこなしていれば、ボールをパスする場所がなくなるからだ。

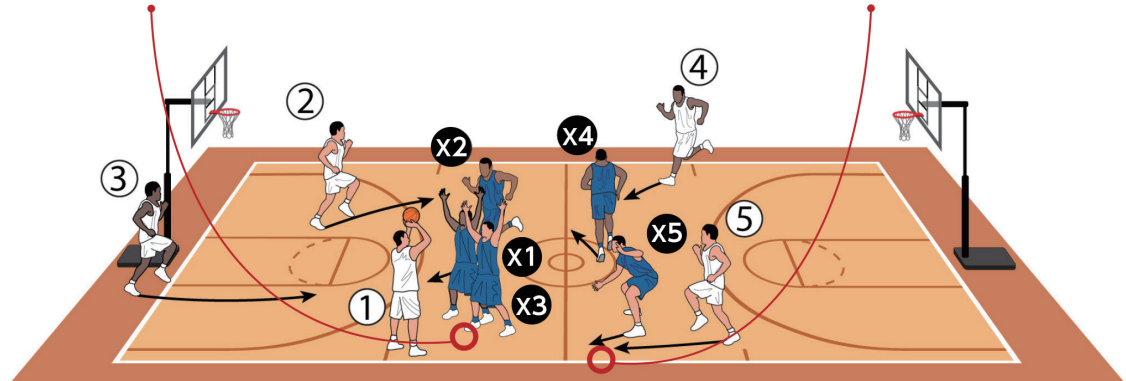
X5はディープディフェンダーだ。だが、バックコートでプレッシャーをかけ続けるので、バックコートから離れすぎないようにする。



2

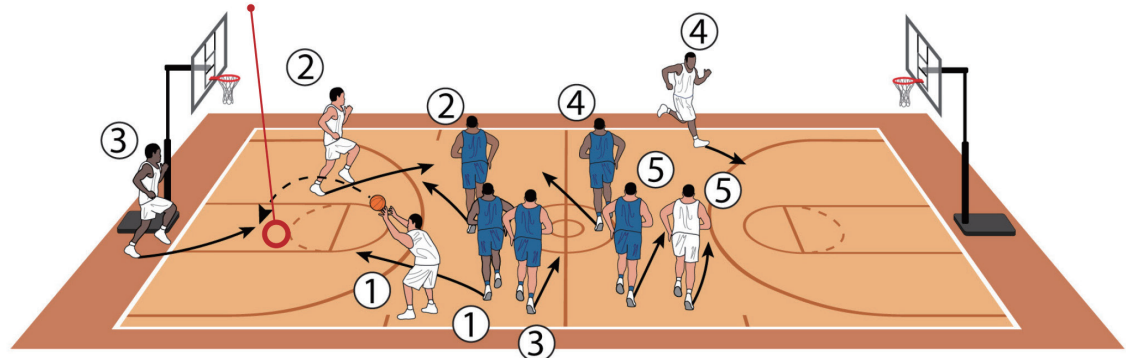
トラップが重要になる。なぜなら、ポイントガードにドリブルをやめさせ、パスをさせるからだ。

X5はフロントコートへのパスレーンのカット。これにより#1のパスの選択肢を減らす。



3

パスが#3に戻されても、ボールリバースのアングルをカットしている限り、このポゼッションでは勝てる。オフェンスはポジションを外れているので、得点しにくいからだ。



プレーヤーの動き → ボールの動き - - - → ドリブル ~~~~~ → シュート →

「ディープバック」で ミッドコート付近でトラップをかける

このプレスの目的はたくさんのターンオーバーを誘い出すことではない。
フロントコートに入ったらオフェンスの注意を散漫にし、意図していることをさせない。

なぜこれを使うのか

これは、前ページの攻撃的なプレスドリルよりもバランスの取れたドリルだ。

セットアップ

このドリルも2-2-1のフルコートゾーンだ。だが、今回はディープディフェンダーはフロントコートのフリースローラインに立っている。第2列のディフェンダーであるX3とX4は、このドリルでもミッドコートに近い位置にいる。

プレーの仕方

●ポイントガードにパスされたら、X1はボールマンをガード。第2列のディフェンダーが少しディープに立つ。オフェンスは大抵の場合、自分たちの第2列のプレーヤーを彼らの前に起き、ボールマンのヘルプとする。X2とX4はローテートしてミドルをカバー、X3は#5の後ろに留まる。(図1)

●X1はボールマンにプレッシャーをかけるが、#1がミッドコートに向かってドリブルしても構わない。なぜならX3がトラップをかけるために待ち構えているからだ。X2はスプリントでミッドコートに戻り、X4はフロントコートへスプリントし、トラップで#1からのパスアングルをカット。(図2)

●#5へのパスが通ってしまったら、X3とX4はトラップ、X1はレーン方向ヘドロップ、X2はバックサイドをカバー。(図3)

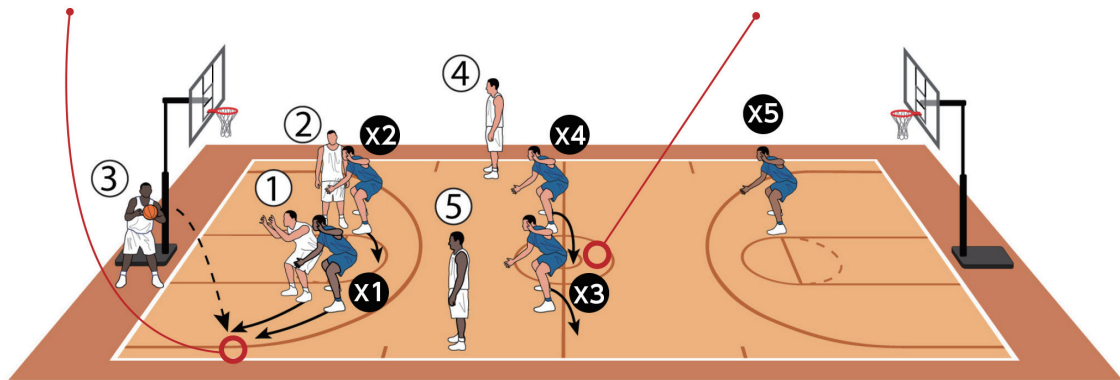
テクニック

継続的にトラップをかけられると、オフェンスはフロントコートでの作戦の展開に苦しみ、ノーマークのプレーヤーを作ろうとする。ディフェンダーが適切にローテートできれば、誰もノーマークにはならないはずだ。

1

ポイントガードにフロントコートへのクリアパスを作らせたくないで、ボールにプレッシャーをかける。

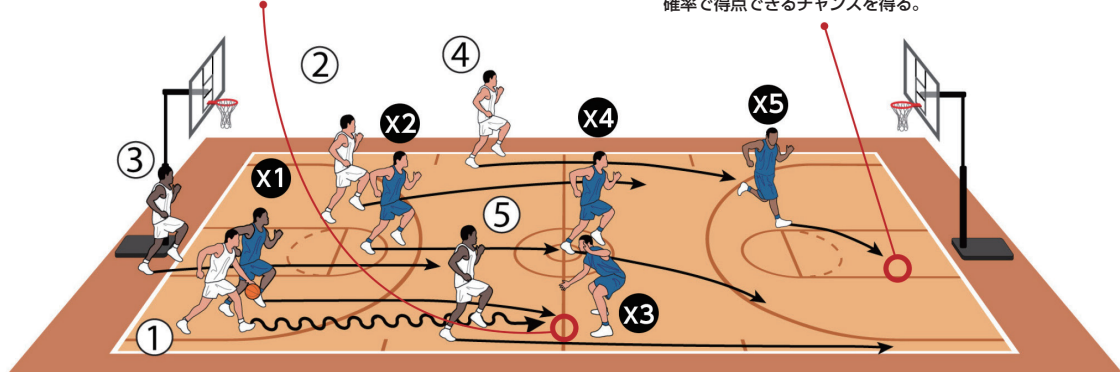
このプレスではやや後ろに立ち、これよりディープに行かせず、バックサイドへのリバーサルもさせない。



2

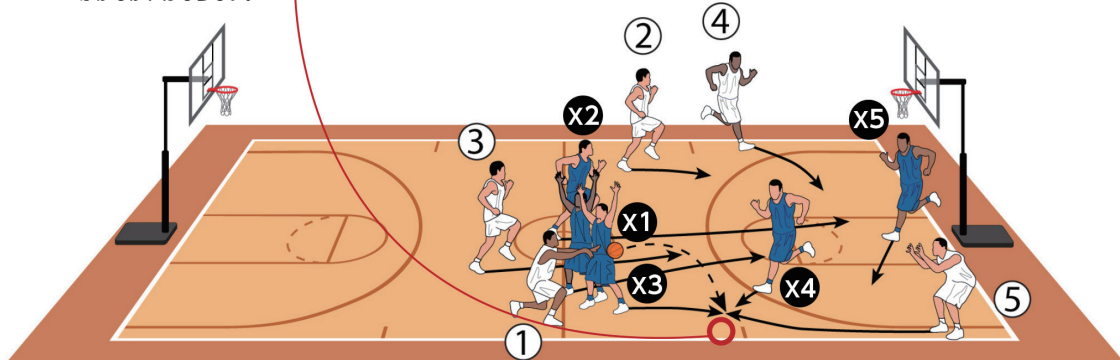
X3は両手を上げて、このトラップをミッドコート付近で実行する。そうすれば、フロントコートへのパスは通せない。

#1が前方にパスした時に備えて、X4はフロントコートへハッスルしなければならない。#1が前方にパスするとオフェンスはいくつものアドバンテージを持つことができ、高確率で得点できるチャンスを得る。



3

次のパスでオフェンスにセットプレーをさせないように、ディフェンダー2人はトラップをかけなければならない。



プレーヤーの動き → ボールの動き - - - - → ドリブル ~~~~~ → シュート →



プレーヤーたちと一緒に過ごせる時間を楽しもう

文：バート・デサルヴォ Bert DeSalvo
ロードアイランド州ロッキーヒル高校女子チームヘッドコーチ

バート・デサルヴォ(写真中央)は、カレッジレベルから高校にやってきた。このレベルで再び勝つために、必要な指導の仕方を模索している最中だ。以下は、同じような境遇で悩むコーチ達に対してデサルヴォ自身が綴った投稿である。

大学のコーチとして12シーズンを駆け抜けて来た私にとって、1年間コーチの職から離れなければならないのは苦渋の選択だった。第二子が誕生したことで、私の家族は、競争の激しいNCAA ディヴィジョン1と2から身を引き、子供たちの面倒を見てほしいと言った。シーズンの厳しさやリクルートの多忙さで育児に時間を割くことは無理だった。

それにもかかわらず、私はバスケットボールが恋しくなり、高校レベルのヘッドコーチ職についてしまった。私は最近、ロッキーヒル高校に雇われた。ロードアイランド州の名門私立校で、スポーツよりも学業で有名な高校だ。私にとっては非常に魅力的なポジションだ。なぜなら私は地元に戻り、基礎レベルから新たなチーム作りにかかわることができるからだ。

指導対象の年齢層や競技レベルが変わる際に、コーチが頭に入れておくべきポイントを挙げておきたい。

1. 決め付けないこと

コーチは、相手のレベルに関係なく指導しなければならない。特にビギナーレベルや、結成されたばかりのチームでは、「知っている当たり

前」というのではない。簡単な専門用語、初歩的なドリル、基礎的なスキルや戦術などを知っているであろうと決めつけてはいけない。

私も、練習を始めてみて現在のメンバーにとっては高度すぎるドリルが使われていると気づくことが何回もあった。プレーの考え方と技術を事細かに説明してやれば、試合に出場した経験があまりない生徒でも理解でき、強固なファンダメンタルを構築できる。

2. 柔軟に、そして時間を費やそう

とにかくやるべきことが多すぎて、練習計画が完全に狂ってしまうことがある。練習計画に固執しないよう、柔軟に対応しよう。教えることは、時間を無駄にすることではない。プレーヤーの未来のために、基礎に徹底して取り組もう。「ローマは1日にして成らず」だ。これは皆さんのチームにも言えること。練習計画をすべてこなせなかったとしても、イライラしてはいけない。

私はすでに、何回か練習計画から逸脱している。実行が複雑すぎるドリルもあるので、練習に飽きさせないためにも、プランB、プランC、プランDを用意しておくといよ。

3. ポジティブな考え方を植え付けよう

チーム全体として向上心に欠ける、あるいは卑屈な状態であるなら、プレーヤーのモチベーションを高め、自信をつけさせるために、前向きな雰囲気での練習にする必要がある。ハイタッチを多く行い、適切な場面ではコーチ自身が冗談を言って楽しませてやろう。

あなたが着任する前にチームが青息吐息であった場合、プレーヤーは前向きで影響力を持っているコーチに慣れていない可能性が高い。毎日、一生懸命に練習しスキルを向上させながらお互いが助け合い、そして楽しくやることをプレーヤーに教えるのが皆さんの役目だ。それ以上に重要なことなど何もない。

チームの指導を始めた第1週目、私は「このドリルはもっと明確な説明が必要だ」「このセットでは彼らに求めることが多すぎる」などと考えることが多かった。だが、考えてみれば大学でもシーズン当初は、同じ状況だった。

今のチームにとって最も重要な事柄をまとめて、できる限り各カテゴリーに取り組もう。きちんと説明すれば理解してくれるプレーヤーたちと、一緒に過ごせる時間を楽しもう。

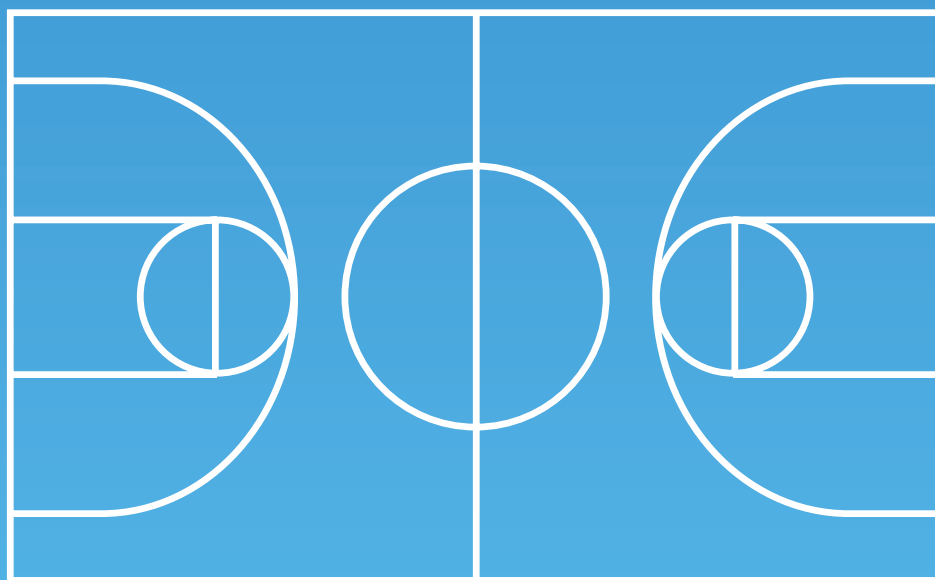
PLAYBOOK

SELECTIONS

米国には、一流コーチが発表した
プレーブックやスカウティングレポートが
数多く存在します。

それらの中から、独自のルートで著作権を獲得した“コーチの生ノート”。

そこに収録されている実戦的なセットプレー、
オフENS、ディフェンスパターン、ドリル等を
紹介しています。



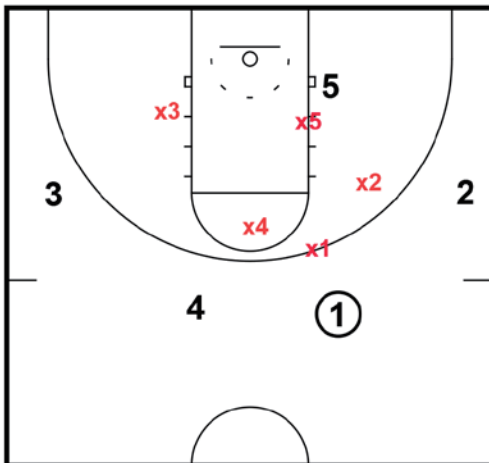
本コーナーは「ENCYCLOPEDIA OF PACK LINE DEFENSE」からの翻訳です。
同書はScott Petermanの製品であり、Scott Petermanが全ての著作権を持っています。記事・写真の無断複写・複製・転載を禁じます。

バックラインディフェンス【最終回】

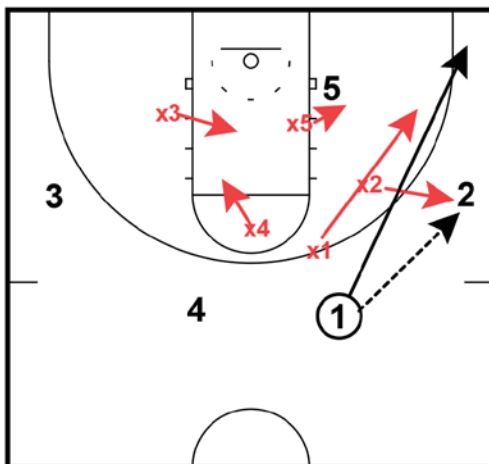
バックラインディフェンスは2008年頃から登場し始め、最近ではヴァージニア・コモンウェルス大学やピラノバ大学など多くが採用しているディフェンスシステムの1つです。これを使う前提として、多くのスキルや考え方をプレーヤーに刷り込まなければなりません。このプレーブックでは、それらが初歩から解説されています。

〈第9章〉 よくある攻撃パターンに対するディフェンス

シャッフルスタッガーに対するディフェンス

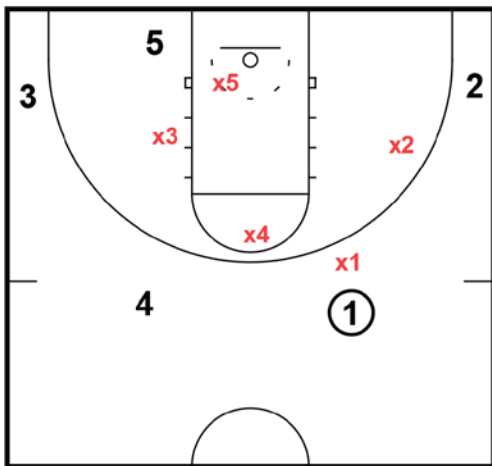


図のようなシチュエーションを想定する。



#1はウイングの#2にパス、その後ボールサイドのコーナーヘカットする。ディフェンスはそれぞれ図のようにポジションを変える。

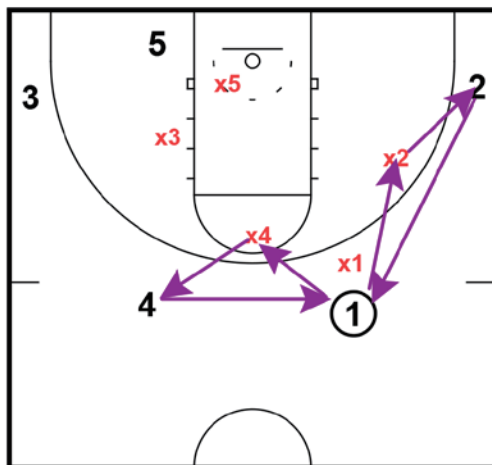
ドリブルドライブに対するディフェンス



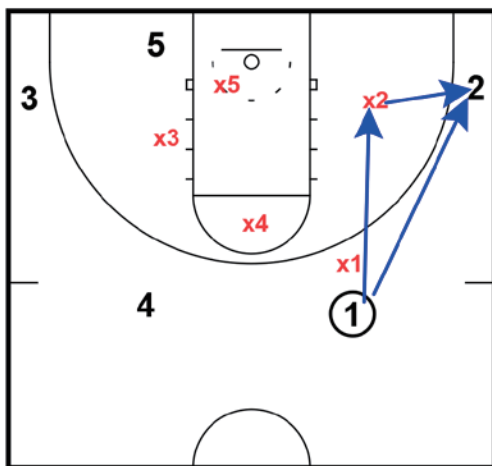
バスケットにアタックすることが原則のドリブルドライブオフenseに対応する時、ギャップの統合は非常に大切だ。

ディフェンスのポジションが深すぎる場合、もしくは深いトライアングルになっている場合、具体的にはヘルプマンがオープンシューターのためリカバーできないような状況（マークマンから離れられない状況）の際に、オフenseは弧の中にディブドライブを仕掛けることが簡単になる。

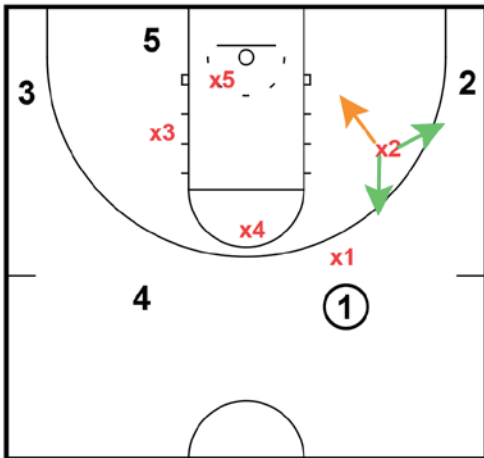
スタンスのテクニックも同様に極めて重要だ。ディフェンダーがボールマンにマッチアップできない（ギャップポジションの）場合、自分のマークマンをフォローできないことがあり、そのような状況だとマークマンにバックドアカットを与えることになる。



図のようにプレーヤー同士が連携しトライアングルを作り、オフenseにオープンドライブプレーンがないと視覚的に判断させることはとても大切だ。さらに互いに連携し、ディフェンシブ・フラットトライアングル内のリカバーヘルプをすぐに行うこともとても重要になる。

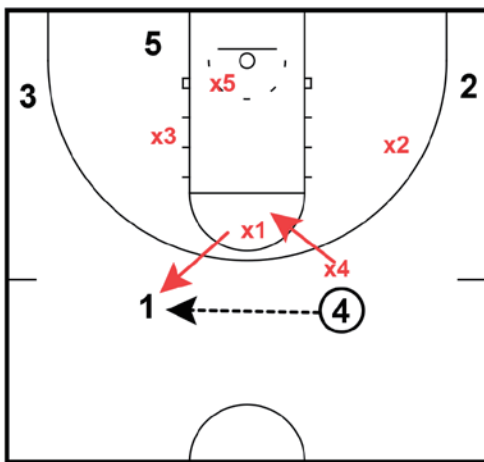


ディフェンダー X2 のポジションが図のように深すぎる場合、もしくは図のように深いトライアングルになっている場合、具体的には #2 がオープンシューターのためリカバーできないような状況（マークマンから離れられない状況）の際に、オフenseは弧の中にディブドライブを仕掛けることが簡単になる。

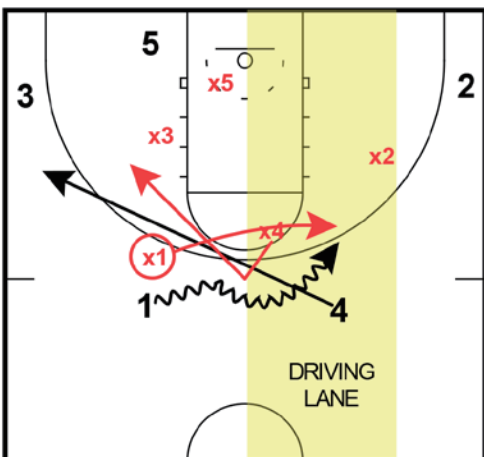


スタンスのテクニックも同様に極めて重要だ。X2がボールマンにマッチアップできない（ギャップポジションの場合、自分のマークマン#2をフォローできないことがある）、そのような状況だとマークマンにバックドアカットを与えることになる。

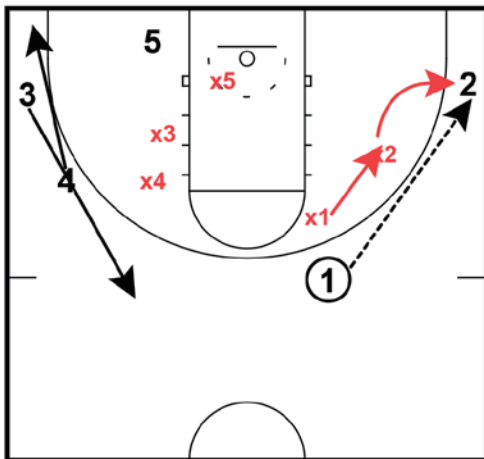
体と脚はボールマンに正対してはいけない。脚はボールマンの方向を向いてよいが、胸はよりサイドラインと平行にならなくてはいいけない。お尻はバスケットの方を向いている。図ではこの3方向が矢印で表されている。これにより、ディフェンダーはボールとマークマンをつなぐ間のギャップの位置、つまり正しいギャップの位置にポジションをとることができる。



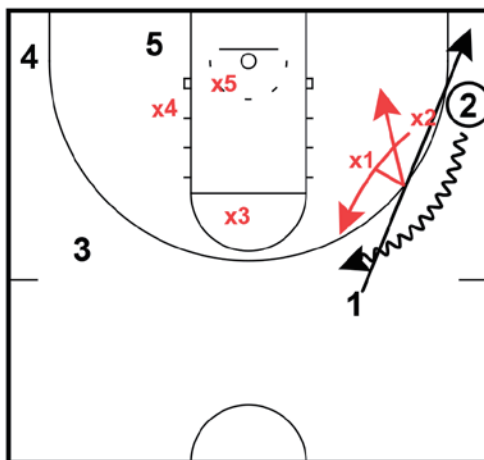
#4から#1にパスされた際、X1とX4はそれぞれ図のようにポジションを変える。



図のように#4がカットをした場合、X4はカッター#4を追う代わりに、ドリブルしてくる#1に対してソフト/フラットショーを与えるようなイメージでドライビングギャップに残り、#1を一時的に止める。これにより#1がバスケットに深いストレートドライブすることを防ぐことができ、さらにX1がスライドスルーしボールにマッチアップすることが可能となる。この際、X2は図のようなポジションをとり、ギャップを結合させておく必要がある。



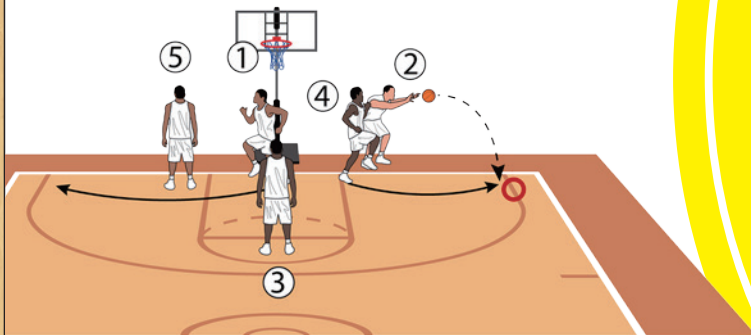
#4はカットの後コーナーへ、#3は2ガードポジションに上がる。
#1はコーナーの#2にパスをする。この際、X1とX2はそれぞれ
図のようにポジションを移動する。



#2がドリブルした際、X1は#2に対してソフト/フラットショー
を行い、#2のスピードを落とす。その間にX2は#1のカットを素
早くスライドスルーする。

次号より「ドリブルドライブ・モーションオフェンス」の連載を開始します。

次号予告 [第108号]



デューク大学のインバウンドプレー

インバウンダーへのバックパスでディフェンダーを出し抜く

- ベースラインのインバウンダーにスクリーンをかけ、3ポイントシュートを狙う
- 単純なサイドハンドオフで、ノーマークでのジャンプシュートチャンスをつくる

プレッシャーシューティング

コンファウンド & コンバート (翻弄と転換)

- ハンドオフからすぐにシュートを決める
- 「ダブルシュート」で様々なフィニッシュの動きを練習しよう

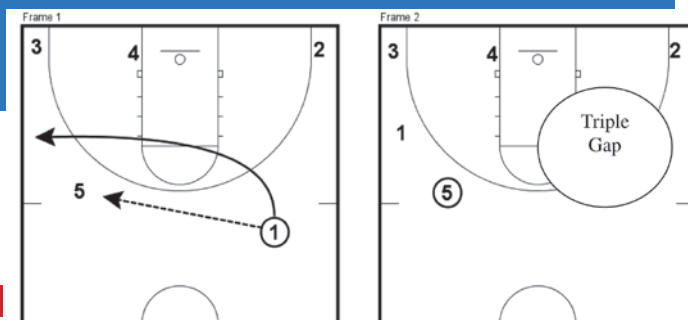
PLAY BOOK SELECTIONS

毎号、厳選したプレー図を日本語訳して紹介!

このコーナーでは、米国で数多く発行されているプレーブック系出版物から厳選したプレー解説を、日本語訳と図解を整えて紹介!

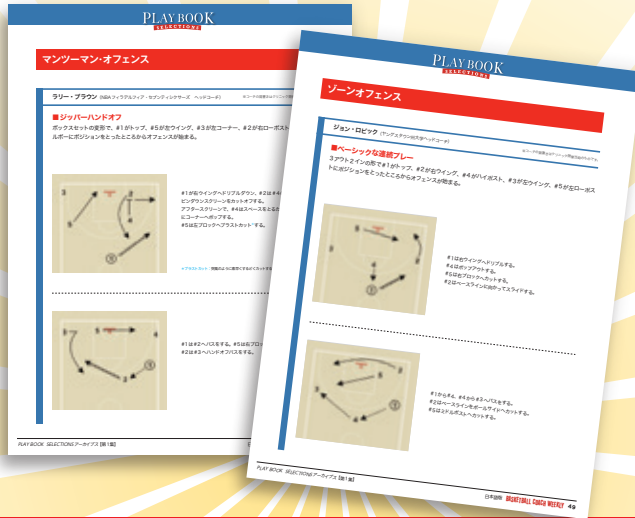
「ドリブルドライブ・モーションオフェンス」(1)

一部抜粋



発掘！ 珠玉のプレー集

過去掲載分を
タイトルごとに、
読みやすく
まとめました！



PLAYBOOK SELECTIONS

アーカイブス 第1集～第12集 好評発売中!

2015年5月の創刊以来、BCW日本語版で好評連載中のPLAY BOOKコーナー。過去に掲載された記事をタイトルごとに再編集し、MOOKとして発行しています。コーチングライブラリーの増強として、ぜひご利用ください。

■お求め・詳細確認はジャパンライム e-bookストアまで

JLC e-book store

<https://www.jlc-download.com/ebook/information/10405>



■お問合せは下記まで

メール ebook@japanlaim.com

電話 03-6865-1027

受付時間：9:00～17:00 (土日祝日を除く)

商品番号	タイトル	本誌掲載号	価格
EB09-S	第1集 ■メンフィス大学コーチクリニック【統合版】	22号～45号	¥7,500+税
EB09-1	第2集 ■メンフィス大学コーチクリニック1 ●マンツーマンオフェンス ●マンツーマンディフェンス	22～28号 36～39号	¥3,000+税
EB09-2	第3集 ■メンフィス大学コーチクリニック2 ●ゾーンオフェンス ●コーチングのヒント集	29～31号 40号 45号	¥2,000+税
EB09-3	第4集 ■メンフィス大学コーチクリニック3 ●ベースラインOBB、サイドラインOBB ●オンボールスクリーンディフェンス	41～44号 32～36号	¥3,000+税
EB10-S	第5集 ■トム・イゾーのディフェンス&リバウンド ■マイク・ダンラップのコーチングフィロソフィー ■サークルディフェンス ■オンボールスクリーンの指導法	9～10号 46～47号 5～6号	¥2,000+税
EB11-S	第6集 ■フロリダ大学の2013-2014プレーブック ■ネバダ大学ラスベガス校のプレーブック	11～19号 20～21号	¥3,000+税
EB12-S	第7集 ■スプレッド・オフェンス【統合版】	67～87号	¥5,800+税
EB12-1	第8集 ■スプレッド・オフェンス1 ブラッド・アンダーウッド(オクラホマ州立大学前ヘッドコーチ)	67～76号	¥3,000+税
EB12-2	第9集 ■スプレッド・オフェンス2 ダナ・オルトマン(オレゴン大学ヘッドコーチ)	77～87号	¥3,000+税
EB13-S	第10集 ■2016NBAプレーオフ・プレーブック【統合版】	48～66号	¥5,000+税
EB13-1	第11集 ■2016NBAプレーオフ・プレーブック1 【イースタンカンファレンス】 ●アトランタ・ホークス ●ボストン・セルティックス ●ジャージー・ネッツ ●クリーブランド・キャバリアーズ ●デトロイト・ピストンズ ●インディアナ・ペイサーズ ●マイアミ・ヒート ●トロント・ラプターズ	48～49号 49～51号 52号 53～54号 55号 58～59号 60～61号 66号	¥3,000+税
EB13-2	第12集 ■2016NBAプレーオフ・プレーブック2 【ウエスタンカンファレンス】 ●ゴールデンステート・ウォリアーズ ●オクラホマシティ・サンダー ●ポートランド・トレイルブレイザーズ ●サンアントニオ・スパーズ ●ヒューストン・ロケッツ ●ロサンゼルス・クリッパーズ ●メンフィス・グリズリーズ	55～57号 61～63号 63～64号 64～65号 58号 59号 59～60号	¥2,500+税